みやこんじょ

No.58

発行日 2020年1月1日
発　行 独立行政法人国立病院機構
都城医療センター
宮崎県都城市祝吉町5033番地1
TEL 0986-23-4111

基本理念 高度で良質な医療を提供し、病む人々が安心し、信頼できる病院をめざします

謹賀新年 …“ONE TEAM”…

院長　冷牟田　浩司

あけましておめでとうございます。常日頃、皆様からのご支援、ご厚情そしてご激励を賜り、心より御礼申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、今年の干支はネズミです。ネズミは大黒天の使いとされ、繁栄と上げ相場をもたらすとの言い伝えにあやかって、今年１年が皆様にとりまして五穀豊穣で、実り多き1年となりますよう、お祈り申し上げます。

昨年1年間の当院活動を振り返り、今年の取り組みをご紹介いたします。

１．昨年暮れも押し迫った12月中旬、日本医療機能評価機構の病院機能評価訪問審査（更新）を受審しました。１年近くにわたり、職員一同、病院の質向上を意識しながら、病院隅々にわたって課題をひろいあげ、準備してまいりました。受審の結果はまだ戴いておりませんが、準備経過の中で様々な課題の発見があり、病院の質改善のための大変貴重な機会になりました。準備半ば、中疲れになってきたころ、桜模様の日本ラガーメンの活躍に感動し、“We are the ONE TEAM”という彼らの雄叫びに勇気をもらい、当院の職員はその言葉を合言葉に一致団結、受審準備に奮闘してくれました。次号のみやこんじょには合格の吉報をお届けしたいものです。この受審準備を進めてゆけばゆくほど、当院の医療機能アップと質向上のためには、多機能にわたって専門人財が決定的に足りないことを身に染みて感じました。当院の今後の最大の課題である人財育成・確保、そしていかにして地域を愛し、定着してもらうか、この課題について長い坂道ですが上り続けていかねばならないと思いました。

２．これからの令和の時代、私共が担うべき急性期医療分野は、①県西・県南地域唯一の地域がん診療連携拠点病院としての役割であり、②県西地区、小林・えびの地区、大隅地区のハイリスク分娩管理から新生児集中治療まで、高度周産期医療を一手に担うこと、この２つの柱であることを再確認し、引き続き、しっかり責任を果たしてまいります。

　まず、県西のわが都城市からはじまった産科の一次施設と二次収容施設および三次施設の大学病院間の胎児心拍陣痛図（CTG）ネットワーク連携システムはすでに県北、県中地域には配置が済んでおり、昨年、県南地域の配置が終了し、これで全県下、余すところなく配置が完成しました。これによって宮崎大学を一次施設、二次施設の地域周産期医療センターと三次施設間の全県の周産期医療連携体制、そうです、これも“All Miyazaki ONE TEAM”と言えるでしょう。今後、このシステムが全国に発信される夢のような時代が来るかもしれません。

　我々が担うべき急性期医療のもう一本の片腕、高度集学的総合がん診療も引き続き、がん診療連携病院、地域医療支援病院の立場で地域の中で今後も私たちが担うべき役割として堅持してまいります。

３．一昨年、一部の病棟を地域包括ケア病棟として開設して間もなく２年になります。都城医療センターでは急性期医療領域で長年培った経験を生かして地域包括ケア病棟（在宅復帰を第一の目標とするため、在宅サポート病棟と銘打っています）で運動器リハ、がんリハ、脳血管疾患リハ、呼吸器リハなどの多彩なリハビリテーションを積極的に取り入れ、急性期治療、急性期からの早期脱却、そして在宅療養・自宅生活復帰へ向けた一連の診療の流れを構築して参りました。これにより、自施設、他施設の急性期医療から回復期医療への移動を円滑に促進し、急性期医療患者の需要にも一層迅速に対応できるようになったと考えます。急性期治療後の回復期医療患者と共に、外来からのsubacute回復期医療患者もお引き受けできるようになってきました。集学的内科治療が求められる生活習慣病の教育入院、消化管疾患のストマ造設後の自己管理は在宅を目指す患者に欠かせませんが、その訓練と指導のための教育入院、自宅介護中の重症心身障害者を介護し続けるご家族のためのレスパイト入院、がん患者の疼痛緩和ケアそして急性治療が峠を越えた循環器疾患（急性心筋梗塞、急性心不全）患者に求められる高濃度かつ精緻な心臓リハビリテーションなど早期自宅復帰に向けた高機能回復期医療に取り組んでゆきたいと思います。

４．昨年４月に院内に臨床研究部が開設されました。今年は治験センターの活動開始、臨床研究実績のさらなる向上をめざしています。

５．診療部門では昨年度、循環器専門医、血液内科専門医が増員されました。高齢者社会での循環器疾患、特に心不全患者のパンデミックにも備えてゆきたいと考えています。そのためにも心臓リハビリテーションは早い時期に取り組んでまいります。高齢者の血液疾患へも一層対応強化してまいりたいと思います。

110年の歴史を持つ都城医療センターは、建物が建て替わっても、医療制度・政策がどう変わっても、経営がどんなに厳しかろうと、患者の皆さんにこの病院で診てもらってよかったと喜んでもらえるような温かい病院でありたい、その志を忘れないように職員一同が団結し、がっちりスクラムを組み、そして　“We are the ONE TEAM for Miyakonojo”で、地域に貢献できる都城医療センターであり続けたいと思っています。そんな中で都城医療センターが地域の中で担うべき役割は何か、どうあるべきか、引き続き考え続けてゆきたいと思います。

本年もよろしくご指導、ご鞭撻をお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

統括診療部長就任のご挨拶

氏名：緒方 健一
勤務部署：統括診療部長
着任にあたっての抱負：今までは、消化器外科の分野の主に「消化管」での診察・手術・化学療法等に携わって参りました。特に手術におきましては、これまでの勤務先におきまして胃や大腸の内視鏡外科手術に力を入れて行なってまいりました。

平成30年4月より済生会熊本病院より赴任して以来のこの2年弱のあいだ、消化器外科や乳腺内分泌外科分野におきまして地域住民の方々に、より高いレベルの医療を提供しようと奔走してまいりました。

さて、前任の後藤又朗医師に引き続き、このたび12月1日付で統括診療部長を拝命いたしました。都城に来てまだ1年9ヶ月ほどしか経たない状況で、当病院の現状や地域の関連病院との連携など十分に把握しているとは言いがたく、さらに従来の外科診療とは異なる不慣れな業務がこなせるかどうか不安であります。

しかしながら、これまで医療センターに勤務されていた医師の方々が築き上げた地域連携をよりいっそう進展させ、さらに診療科と管理部との架け橋になれるよう精一杯頑張っていこうと思いますので、ご指南・ご指導のほどをよろしくお願いいたします。

着任のご挨拶

氏名：吉留　綾
勤務部署：整形外科
着任にあたっての抱負：

何事にも前向きに、積極的に取り組んでいきます。

他職種の方と協力しながら、患者さんに寄り添った医療を提供していきたいです。

氏名：入佐 浩史
勤務部署：小児科
着任にあたっての抱負：

小児科医としての経験も浅く、まだまだ未熟者ではありますが、頑張ります。

地元は小林市であり、小林市からの患者さんも来院されると思いますので、親近感が少しでも湧けば幸いです。

氏名：内村 絵美
勤務部署：小児科
着任にあたっての抱負：

初めての大学病院以外の勤務で緊張の毎日です。頑張りますのでよろしくお願いします。

氏名：下田 貴史
勤務部署：小児科
着任にあたっての抱負：

初めまして、都城の小児のためにがんばります。

氏名：田中 治成
勤務部署：産婦人科
着任にあたっての抱負：

お産をたくさんとりたいです。よろしくお願いいたします。

都城の方々のために、頑張ります!!

第一回九州地区診療情報管理士研修を開催して

令和元年８月17日に国立病院機構九州グループの第一回の診療情報管理士研修会をＮＨＯ熊本医療センターで開催しました。

病院では様々な専門職種が働いており、スキルアップや情報交換のために職種ごとの研修会が機構内の各グループ主催で開かれていますが、診療情報管理士については、まだそうした研修会は実施されていません。しかし診療データに基づかない診療や研究、病院経営がもはや考えられない時代において、そのマネジメントに携わる診療情報管理士が自分の病院に引きこもりただ日々の仕事をこなすだけでは、これからの地域診療の大再編成時代を乗り切ってはいけません。というのも診療情報管理の分野でも今まで使ってきた疾患の分類コードであるＩＣＤが、まもなく新たに改訂された11版に更新され、さらに手術や処置、患者の生活機能に至るまでコード化を視野に入れた動きが進行中だからです。知識のバージョンアップをするだけではなく、他の機構病院の取組状況を知っておくためにもまずは相互の連携を深めることが必要なのです。そうした意味でも今回こうして各病院の診療情報管理士が一堂に会することができたのは、たいへん喜ばしいことでした。

研修会では、当院の診療情報管理士の丸山こずえさんが、開会の挨拶をした後、本研修会の開催に多大なご尽力をいただいた熊本医療センター事務部長の植松裕様から「診療情報管理士の役割と期待」と題した熱いメッセージをいただきました。小職も当院で実施している診療記録の質的監査の実際を紹介しました。その後診療記録全般についての問題点を討議するグループワークを行い、閉会の挨拶を九州医療センターの皆元麻里加さんが行い、無事終了しました。その後熊本医療センターの診療情報管理士の方々が準備していただいた懇親会では、温かいおもてなしをしていただきました。

私も日本診療情報管理学会に所属し、理事として活動していますので、機構外の病院を含め診療情報管理士がいかに活躍しているかが耳目に入ってきます。機構病院が診療情報管理と病院経営の流れに遅れることなく、否、むしろ牽引していくためにも来年、再来年と研修会を運営し連携を深めていく必要があるとこの夜強く感じました。

（副院長　吉住 秀之）

緩和ケア研修会に参加して

私は令和元年 10 月 14 日（月）に、地域がん診療連携拠点病院である都城医療センターに於いて開催された緩和ケア研修会に参加しました。緩和ケア研修会は昨年より多職種協働のため医師、歯科医師とその他のメディカルスタッフも受講可能と広報がありました。私も基本的な緩和ケアについて正しく理解し緩和ケアに関する知識、技術、態度を修得したいと思い、看護師として初めて緩和ケア研修会に参加しました。ファシリテーターとして院内からはがん診療統括部の加治屋医師、岩崎医師、和田ＭＳＷ、院外からは聖路加国際病院緩和ケア科部長の林章敏医師をはじめ、県立宮崎病院精神科医長の並木薫医師、鹿児島市医師会病院緩和ケア科部長の馬見塚勝郎医師にご指導頂きました。

今回の緩和ケア研修会は私を含め医師６名、看護師６名の計 12 名が参加しました。研修では事前学習したｅ–ラーニングによる振り返りをはじめ、緩和ケアに必要な知識の講義、事例を用いたグループワーク、コミュニケーションを学ぶロールプレイなど様々な内容を受講しました。グループワークでは各専門性を活かした視点や知識が飛び交い、充実した意見交換の場となりました。コミュニケーション技法を活用したロールプレイでは、医師役、看護師役、患者役と３人一組で行い、各立場の気持ちを理解することや患者の思いを知るための意図的なコミュニケーションスキルである傾聴、共感を使った精神的苦痛の緩和を学ぶ事ができました。

今回の研修を通して、地域の医療者と交流を深めることができ大変貴重な学びとなりました。この研修会で得られた緩和ケアに関する知識、技術、態度を活かして、患者さんの心や身体の苦痛が緩和できるよう支援していきたいと思います。

（５病棟看護師　穂村 友貴）

地域訪問活動を始めました!

令和元年 10 月より、地域医療連携室の看護師・退院調整看護師のユニホームが変わりました。新しいユニホームの変更をきっかけに地域訪問活動も開始しました。訪問先は、患者紹介から退院調整まで、連携している地域の医療機関、施設、訪問看護ステーション、行政等です。訪問活動は退院支援の質向上を目的に、1）継続看護の実際を確認し、関連部署にフィードバックする、2）地域医療連携室、退院調整看護師及び退院調整ＭＳＷとして活動の広報と顔の見える連携を強化する、3）患者紹介受け入れ等の連携や療養先の選択等退院調整に活かし、経営に参画することを活動内容としています。訪問活動は毎月行っており大変好評を得ています。訪問先の反応として「患者さんの情報交換を密に行うことができた。退院困難事例の受け入れにも協力したい」、「施設の特殊性や環境を体感してもらえ、患者さん、家族に詳しい情報提供を期待したい」、「継続看護の実際や在宅生活に対する患者、家族の想いについて等情報提供ができ、今後の連携もより円滑にできる」などがありました。退院調整看護師も療養先での患者さんの生活の様子や、訪問先からの意見や要望を確認することができ、退院調整の取り組み課題にも意欲的に取り組んでいます。今後も地域医療連携室は、患者さん、家族を取り巻く地域の医療機関、各関係機関、各職種と更なる顔の見える関係構築を目指し、地域訪問活動を継続していきたいと思います。

（地域医療連携室師長　鳥丸 章子）

看護学校祭

今回、『繋ぐ～つながる輪　つながる未来』をテーマに、企画・運営をし、学校祭を開催させていただきました。今年は虐待を柱に設定し、私たちは虐待が家族の孤立化によって起こると考えました。そこで、虐待という問題に対し、私たちにも何かできないかと考え、地域の方々、学生、病院職員との交流の輪が広がり、人と人が繋がることをねらいとしました。

当日は各部門に分かれ、模擬店、バザー、健康チェック・アロマ、献血、ステージ発表を行いました。特に模擬店では、地域の就労支援施設である「社会福祉法人キャンパスの会」、「社会福祉法人なのはな村」、「特定非営利活動法人まーる工房」の皆様と一緒に、手作りのお弁当や総菜、お菓子類を販売することができました。また、ステージ発表では、文化活動事業の「Ｈ・Ｐ・ミュージック・サポート」とボランティア団体「昭和を楽しも会」の皆様と音楽を通じて楽しい時間を過ごすことができました。

今年の成果として、表１・２の通りであり、多く地域の皆様に来場していただき、目標数 150 名を上回ることができました。また、病院職員の皆様にもご協力いただきましたバザーの売上金の一部を「認定特定非営利活動法人児童虐待死全国ネットワーク：オレンジリボン活動」へ寄付し、児童虐待予防の啓蒙活動に役立て、社会貢献に繋げることができました。

第３回オープンキャンパスも同時開催し、昨年度よりも多くの皆様に参加していただきました。本校の学校生活についてお伝えし、看護学生と共に様々な看護技術を体験していただきました。

学校祭のさまざまな企画をとおして、患者・家族の皆様や病棟スタッフ、地域住民の皆様、講師の皆様などによる多くのご協力や支援に対し、日頃の感謝の気持ちを伝えることができました。ありがとうございました。

（看護学校祭実行委員長　小川 璃奈）

表１：来場者数

部門／年度	来場者（全体）	健康チェック	アロマ	献血	オープンキャンパス
令和元年度	164 名（大人：120 名、子ども：44 名）	177 名（学生含む）	91 名	33 名（受付：66 名）	49 名（受験対象者：35 名、保　護　者：14 名）
平成 30 年度	97 名		78 名	55 名（受付：65 名）	7 名

表２：収益

部門／年度	バザー	模擬店
令和元年度	2,760 円（学生による飲料水売上金）	36,377 円（当日売上：35,010 円、リサイクル売上：1,367 円）※ 35,000 円を「認定特定非営利活動法人児童虐待死全国ネットワーク：オレンジリボン活動」へ寄付

誓いの式

11月1日（金）に第73回誓いの式を厳かに挙行いたしました。第73回生40名は、来賓の皆様、保護者、病院・学校職員に見守られ、自分たちの誓いの言葉を斉唱し、看護への決意や思いを新たにしました。来賓として、都城市健康部長　新甫節子様、都城保健所次長　川添洋次様、宮崎県看護協会副会長　黒木智子様、同窓会会長　平井良子様にご臨席いただきました。

73回生は皆さまの前で宣誓した誓いを胸に、仲間と共に切磋琢磨し、誠心誠意看護に向き合っていきます。どうぞご指導よろしくお願いいたします。なお、以下の内容は誓いの式を終えた学生の学びのレポートから、一部抜粋したものを掲載いたします。

今回の誓いの式を終えて、式典を作り上げることに携わってくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。この一か月間、去年の映像を見たり、先輩や先生にアドバイスを頂いたり、たくさんの方々にサポートしてもらいました。また、式典を成功させるために、クラスで一丸となって放課後や式当日の朝も練習を行いました。練習の中で改善した方がよいことや、どのようにしたらうまくいくかについて案を出し合い、何度もいろいろな方法を試しました。今回の誓いの式が成功したのは実行委員の人たちをはじめ、先生や先輩、クラスメイトなど、沢山の人の協力があったからだと思います。

私は高校2年の時にふれあい看護体験に参加しました。その時に、言葉でのコミュニケーションが難しい患者さんに優しく話しかけて手浴をしている看護師を見て、私も看護師を目指すようになりました。式典での3年生のお祝いの言葉の中に、実習中に自身の知識不足に涙したという言葉がありました。その時に、実習で実際の患者さんと関わることは、自分が思っている以上に大変で難しいことだと思いました。

私たちもこれから、まず1月の実習に向けて準備に取りかかります。今まで講義や演習で学んだことをいかして、看護に取り組むのはもちろんですが、今回の誓いの式で誓ったことを胸に、頑張りたいと思います。

（73回生　石井　優月）

誓いの式では大勢の集ってくださった方々の前で、自分たちの誓いを宣言することにより、改めて、看護師への思いも強まりました。私は、誓いの式を終えて思うことが3つあります。

1つ目は、この学校に入学して、仲間たちと出会えて良かったと思いました。誓いの式の練習も皆で息を合わせて行動し、心を1つにしました。誓いの言葉で宣言したように、これから3年間どんなに辛い事があっても、クラスの仲間全員で切磋琢磨し、誠心誠意看護と向き合っていこうと思います。

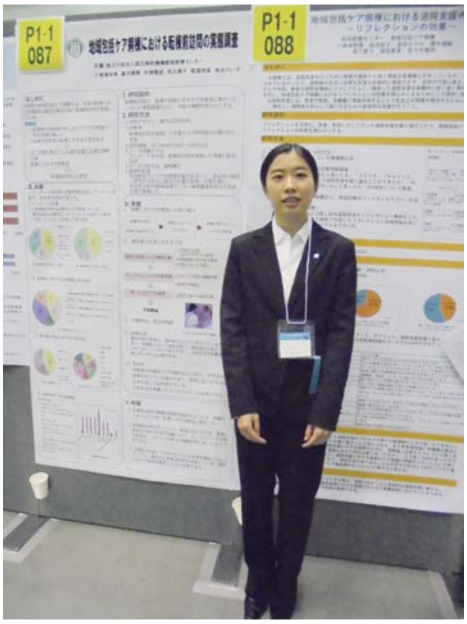
2つ目は、支えてもらっている周りの人々に、感謝の気持ちを忘れてはいけないということです。入学してから約7か月間、新しい学校生活に慣れることができず、思い通りにいかないことも多くて悔しい気持ちでいっぱいでした。でも私には、どんな時も支えてくれる家族がいて、辛い時は寄り添ってくれる友達や先生がいました。無事に誓いの式を迎えられたのも、この7か月間休まずに学校に来ることができたのも、支えてくれる人がいてくれたおかげだと思っています。改めて、自分が沢山の人に支えてもらっていることに気づき、支えてもらっていることの有難さをどんな時も忘れてはいけないと思いました。

3つ目は、自分が理想となる看護師となるために毎日の勉強に励み、日々の生活の中で共感力と寛容性のある心を身につけていきたいです。私は自分の看護師像である「患者一人一人の心身に寄り添い、誰からも信頼されるケアを提供できる看護師」になるという思いを胸に、これからも頑張っていきたいです。

（73回生　大石　りえ）

第73回　国立病院総合医学会に参加して

令和元年11月8日～9日の2日間、名古屋国際会議場で開催された第73回国立病院総合医学会に参加し、「地域包括ケア病棟における転棟前訪問の実態調査」の演題でポスター発表を行いました。当病棟は、平成30年3月1日に地域包括ケア病棟が開設され、4月より自立支援を視点とした退院支援に必要な情報収集、転棟に対する不安軽減を目的に転棟前訪問を実施しています。看護研究を通して、転棟前訪問で病棟の特徴を説明することで病棟のイメージがつき転棟への不安軽減に繋がったこと、患者の抱える不安、患者・家族の今後の希望が明確になり、スタッフ全体で情報共有したことで統一したケアに繋がることが分かりました。今後の課題として、日常生活全般に不安を抱えている患者を事前にリストアップし、優先的に転棟前訪問を実施していき、退院に向け個別支援を行っていきたいと思います。発表では、「当日転棟が決まり訪問が困難な場合はどうしたら良いか」など会場から質問もあり緊張しましたが、無事に終えることができました。同じセッションのポスター発表では、他病院の地域包括ケア病棟の看護や取り組みを知ることができ、どの施設においても地域包括ケアへの関心の高さを感じました。



学会に演者として参加するのは今回が初めてでしたが、会場では看護部長、副看護師長、病棟スタッフの支えがあり無事に発表を終えることができました。看護研究をポスターにまとめ、3分という短い時間で発表することはとても難しかったですが、「ベストポスター賞」を受賞することができました。今回学会に参加するにあたり、研究に協力して頂いた皆様とご指導頂きました皆様に心から感謝いたします。　（在宅サポート病棟看護師　簗淵 有希）

◇◇

11月8日、9日に名古屋国際会議場で開催された第73回国立病院総合医学会に参加し、「当院の外来患者における尿検体分離菌の薬剤感受性について」発表を行いました。当院では昨年の4月より抗菌薬適正使用支援加算の算定を開始し、抗菌薬適正使用支援チームが活動を行っています。今回抗菌薬適正使用支援の一環として、尿検体分離菌のアンチバイオグラムの作成、解析を行ったため、ポスター発表させて頂きました。今回の発表では、細菌形態とアンチバイオグラムを基に抗菌薬選択を行うことで抗菌薬適正使用に繋がる点を示すことができました。また上司の方々にご指導頂き、「ベストポスター賞」を受賞することができ、大変嬉しく思っています。

学会会場では、他職種の方々との交流や様々な分野の演題を聞くことができ貴重な経験となりました。今回学んだことを生かし、今後も業務や研究に励みたいと思います。（中央検査部　鬼塚 久弥）

外来診療科別週間担当医当番表　独立行政法人 国立病院機構 都城医療センター

【 全診療科　初診予約制 】受付時間 8:30 ～ 11:00　【2020 年 1 月 1 日】

診療科名等			月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科 ※2	初診	血液		前田宏一		佐藤誠一	
		肝	加藤順也				
	再診		前田宏一 佐藤誠一	加藤順也 佐藤誠一	前田宏一 加藤順也 佐藤誠一	前田宏一 加藤順也 佐藤誠一 日高智徳	前田宏一 加藤順也 佐藤誠一
循環器内科		一般	宮内孝浩	宮内孝浩	宮内孝浩		宮内孝浩
		特殊		心筋症外来（午後）			
呼吸器内科		初診	今津善史		今津善史	小田康晴	
		再診		今津善史			今津善史
呼吸器外科		初診	手術日	巻幡聡	手術日	巻幡聡	手術日
		再診		巻幡聡 加藤文章		巻幡聡 加藤文章	
小児科	午前	1診	内村絵美	柳邊秀一	入佐浩史	下田貴史	裵孝埈
	午後	1診	柳邊秀一	内村絵美	下田貴史	入佐浩史	柳邊秀一
		2診	入佐浩史	裵孝埈	裵孝埈	内村絵美	下田貴史
		3診			シナジス外来（8月～3月）		
外科		初診	田中洋	手術日	田中洋	手術日	杉原栄孝
		再診	緒方健一 田中洋		光浦智証		緒方健一 杉原栄孝
		特殊	乳腺（田中洋）		乳腺（田中洋）		乳腺（杉原栄孝）
消化器病センター		初診	藤原利成 土肥容子	駒田直人	内視鏡検査・治療	駒田直人 藤原利成	土肥容子
		再診		藤原利成 土肥容子			駒田直人 土肥容子
NST外来				駒田直人（第二,四火曜日 14:00～16:00）			
整形外科		初診		吉川教恵 吉留綾	手術日	吉川教恵 吉留綾 岩佐一真	
		再診	吉川教恵 岩佐一真				吉川教恵 吉留綾
		特殊検査	骨粗鬆症検査	骨粗鬆症検査	骨粗鬆症検査	骨粗鬆症検査	骨粗鬆症検査
リウマチ科 ※2			吉川教恵（再診のみ）	吉川教恵（再診のみ）	手術日	吉川教恵（初診のみ）	吉川教恵（再診のみ）
泌尿器科		1診	手術日	山崎丈嗣	山崎丈嗣	慶田喜文	山崎丈嗣
		2診			慶田喜文		慶田喜文
皮膚科				中山文子（9:30～13:00）		中山文子（9:30～13:00）	中山文子（9:30～13:00）
産婦人科		初診	徳永修一	古田賢	徳永修一		古田賢
		再診		徳永修一	古田賢	古田賢 植野典子	徳永修一
耳鼻咽喉科		一般	外山勝浩 津曲省吾	外山勝浩 津曲省吾	外山勝浩 津曲省吾	外山勝浩 津曲省吾	手術日
		難聴外来	津曲省吾（14:00～17:00）				
放射線科		放射線治療	加治屋芳樹	加治屋芳樹	加治屋芳樹	加治屋芳樹	加治屋芳樹
		画像診断	日野祐一	日野祐一	日野祐一	日野祐一	日野祐一
歯科口腔外科		一般	田畑雅士 新屋俊明 西久保舞	田畑雅士 新屋俊明 西久保舞	田畑雅士 新屋俊明 西久保舞	田畑雅士 新屋俊明 西久保舞	手術日
		ペインクリニック					横山幸三（終日・手術/外来不定期）
		障がい者歯科					森主宜延（月2回）
がんサポート外来							岩崎竜馬
緩和ケア外来							林章敏（第四金曜日）
特殊外来			マザークラス（第二土曜日・第四月曜日）	リンパ浮腫外来 フットケア外来	助産師相談室（午後）	リンパ浮腫外来 PICC外来（午後）	ストーマ外来（午後） 母乳外来 遺伝カウンセリング外来（14:00～15:00）

※1　全診療科初診予約制となりますので、事前に診療FAX連絡票にてご連絡頂きますようお願いします。
※2　医療機関の方へ：血液内科、リウマチ科の初診については、事前に初診紹介予約申込書と共に、最新の血液データを送ってください。

【地域医療連携室・がん相談支援センター】フリーダイヤル (0120)411-329　FAX (0986)26-1893

独立行政法人 国立病院機構
都城医療センター（地域がん診療連携拠点病院・地域周産期母子医療センター）
〒885-0014　宮崎県都城市祝吉町5033番地1
TEL/0986-23-4111（代表）　FAX/0986-24-3864
E-mail/621-miyakonojo@mail.hosp.go.jp　http://www.nho-miyakon.jp
編集発行：広報委員会